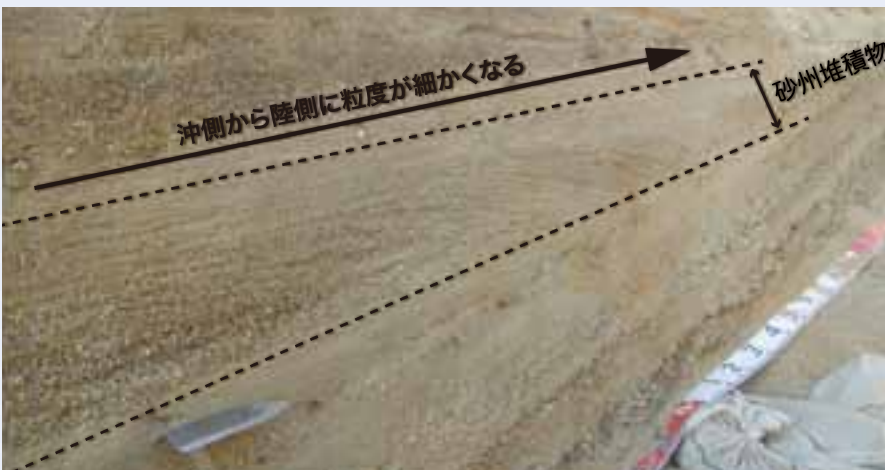




◀ 2012年頃から大阪で確認が相次いだアカハネオンブバッタ(写真)は、市民との共同の分布調査により、近畿地方の平野部に広く定着していることが明らかとなった(<https://www.google.com/maps/d/edit?mid=zZcKFWqC2Reg.kat0QoCtgpdw>)。南西諸島及び台湾でサンプリングを行い、COI、ITS2領域の塩基配列を比較したところ、少なくとも移入個体群の一部は台湾産のものと同じであることが明らかとなった。科研費基盤研究(C)「アカハネオンブバッタの移入・拡散の実態と在来オンブバッタに与える影響の解明」(研究代表者：松本吏樹郎；研究課題番号：26430209)より。



▲ 変動帯である日本において避けることが出来ない地震や火山噴火などの地質災害に対する市民のリテラシー向上のために、地質現象の「見える化」実演実験プログラムの開発に取り組んだ。地震は地下における断層現象が本質であるので、プラスチック水槽と小麦粉とココアで作った地層を使った「逆断層のモデル実験」を紹介した。その後改良を加えて、「正断層のモデル実験」と「褶曲のモデル実験」を開発し、博物館入館者を対象としたジオラボにおいて公開実験を行った。科研費基盤研究C「博物館資料を活用した地質現象の『見える化』実演実験の開発とその博物館学的意義」(研究代表者：川端清司；研究課題番号 22601017)から。左は逆断層のモデル実験(平成23年3月開催)、右は褶曲モデル実験(平成26年3月開催)。



◀ 大阪市浪速区の恵美須遺跡において、台風により形成された海浜堆積物が見いだされた。海浜堆積物中には、沿岸州が陸方向に移動し、最終的に前浜に乗り上げていった様子が見て取れ、同時にその堆積物は陸方向に細粒化する(写真)。これはおそらく台風による暴浪の減衰期に陸方向への堆積物運搬が活発だったことを示している。科研費基盤研究(C)「現世および考古遺跡における高潮・越波堆積物の認定と津波堆積物との比較」(研究代表者：中条武司；課題番号：25400494)より。